



<p>5 潜在性結核感染症の化学療法 潜在性結核感染症の治療においては、原則として次の(1)又は(2)に掲げることとする。ただし、INHが使用できない場合はINHの副作用が予想される場合は、RFP単独療法を4月間行う。</p> <p>(1) INHの単独療法を6月間行い、必要に応じて更に3月間行う。 (2) INH及びRFPの2剤併用療法を3月又は4月間行う。</p> <p>第3 外科的療法 1 外科的療法的一般方針 (1)・(2) (略) (3) 患者の結核菌がINH及びRFPに対して耐性を有する場合は外科的療法の実施に際しては、患者の結核菌が感受性を有すると想定される抗結核薬を複数併用する。</p> <p>2～5 (略)</p>	<p>5 潜在性結核感染症の化学療法 潜在性結核感染症の治療においては、原則としてINHの単独療法を6月間行い、必要に応じて更に3月間行う。ただし、INHが使用できない場合には、RFPの単独療法を4月ないし6月間行う。</p> <p>第3 外科的療法 1 外科的療法的一般方針 (1)・(2) (略) (新設)</p> <p>2～5 (略)</p>
--	--